

2018年度
(平成30年度)

自己評価結果
(学校情報の公表)

2019年 5月 25日

学校法人川原学園
東京動物専門学校

目 次

1. はじめに	1
2. 学校概要	3
3. 教育活動	4
4. 学業成果	5
5. 学生支援	6
6. 教育環境	7
7. 学生募集	8
8. 財務	8
9. 地域連携貢献、その他	9
10. 表	
表1 平成30年度 卒業生就職状況	
表2 平成30年度中に学校主導で取得した資格	
表3 過去7年間の自主退学者数と退学時期	
表4 学生課が扱った学生の相談、及び指導内容とその延べ件数	
表5 八千代本校舎 学生利用施設	
表6 富里実習施設主要動物舎	
表7 富里実習施設教材動物	
表8 看護実習用設備、及び備品	
表9 財務消費比較表（5カ年）	

1. はじめに

東京動物専門学校は、1987年東京都三田に東京動植物専門学院としてスタートし、1990年千葉県知事より専修学校の認可を得て、学校法人川原学園、東京動物専門学校として開校しました。同時に千葉県八千代市に八千代本校舎、富里市に富里実習施設が完成し、動物飼育管理技術者を養成する専門学校として今日に至っております。学校創設から31年が経過し、多くの卒業生が北海道から九州沖縄まで全国各地の動物園や水族館をはじめ、多くの動物関連施設にて働いております。

また2013(平成25)年には更なる職業教育の充実を図る観点から、企業等との密接な連携を図り、最新の実務の知識等を身につけられるよう教育課程を編成し、より実践的な職業教育の質の確保に組織的に取り組む専門課程を文部科学大臣が「職業実践専門課程」として認定する制度ができ、東京動物専門学校(以下本学)も2014(平成26)年3月にその認定を受け、職業教育やキャリア教育の充実に努めております。学校情報についても従前通り公表する次第です。

2. 学校概要

(1) 校訓

東京動物専門学校の校訓は「心・知・技・体」で、その内容は、動物に対する正しい考え方(心)、最小限必要な知識(知)、基本的な技術(技)、及び健康な体(体)をバランス良く兼ね備えた飼育技術者を育成することです。このうち、学校の授業で教授できるものは「知」と「技」であり、「心」と「体」は2年間の学校生活を通じての様々な体験より身に付くものであると考えております。

(2) 学校の歩み

① 学校誕生

東京動物専門学校は、川原鳥獣貿易株式会社が母体となっております。前理事長川原義郎は、全国の動物園や水族館からの要望に応じて世界中から動植物の調達等を取り扱ってききました。その仕事を通じて、これらの動物の飼育現場には、動物に対する正しい知識と技術をもった人材がますます必要になると感じ、動物の飼育や看護の専門技術者を養成する学校を設立したものです。

② 学校の概要

名称 学校法人 川原学園 東京動物専門学校
住所 〒276-0046
千葉県八千代市大和新田1093番8号
TEL 047-459-0511 (代)
フリーダイヤル 0120-010520

沿革	1987年 4月	前理事長の川原義郎が東京都三田に東京動植物専門学院を設立し、開校
	1989年 12月	八千代本校舎完成
	1990年 2月	富里実習施設完成
	1990年 3月	千葉県知事より専修学校の認可を得て、学校法人川原学園を設立し、植物部門を廃止すると共に、東京動物専門学校と校名を変更
	1990年 4月	東京動物専門学校開校(定員 120名)
	1992年 3月	本校新校舎完成
	1993年 4月	学科を統合し、コース制を導入
	2014年 3月	文部科学大臣より「職業実践専門課程」の認定を受ける
	2015年 4月	東京動物専門学校 動物管理科 各学年 140名に学則変更
	2018年 12月	富里実習施設に、講義棟新設
課程		動物管理専門課程 動物管理科 動物飼育技術者コース

3. 教育活動

(1) 教科数、体系と目標

授業教科は2年間、49科目数、87単位で構成されております。2年間での総授業時間2451時間で、内講義は945時間、実習は1506時間。詳しくは、職業実践専門過程の基本情報にて、授業科目等の概要を示しております。

本年度も1学年を対象に、授業開始と共に、上野動物園・多摩動物公園・葛西臨海水族園を専門講師の案内による特別授業を開始し、関連科目との連携授業を行っております。また10月には宿泊を伴う静岡県東部の動物園・水族館等の施設見学会を行い、進路決定の手助けにと就職を目指した活動とすると共に、見聞も広めています。

施設研修（インターンシップ）を2年次後期に実施しております。そこではプロの仕事を実習・体感します。職業教育協定書（契約書）を締結した事業者のもとにて、基本的には4週間（総時間数182時間）の動物飼育実習分野における実践的な職業教育を受け、就職に結びつけております。

(2) 資格試験（各種資格）

潜水士／ダイビング、危険物取扱者（乙種）及び赤十字救命法救急員講習会、玉掛け技能講習について、取得方法の指導、試験についての相談、アドバイス等、資格取得講座を開設し希望者には受講させています。

(3) 教職員

2018年(平成30年)5月1日現在の教職員数は、総数で32名。

教員数 26名(本務 11名 兼務 15名)

職員数 4名(本務 4名 兼務 0名)

2018年度の新入学生は153名と前年同様であり、教職員体制に変更はありません。職業実践専門課程では、教職員の研修も強く求められており、数年前より全国各地の動物園・水族館などの施設を視察しており、2018年6月には中京圏にある名古屋港水族館や名古屋東山動物園などで園長等による講話を受けると共に、園館内を視察した。また7月には現職の高校教諭による現代若者気質等の講義を教職員全員が受け、現代学生の理解を深めた。

更に、専門講師による「ハラスメント」防止のための講習会を開催するなど、研修体制を充実させているところです。

4. 学業成果

(1) 就職指導

① 就職指導の方法

本校での就職指導は、大別して3つの方法で行っております。

第一の方法は、全体指導です。1学年に入学した時点から、全学生に「就職のしおり」を配布すると同時に、教育課程の進行状況に合わせて就職に対する準備の方法を指導しております。

第二に「就職ガイダンス」なる就職窓口を、学生課が週1回の割合で授業時間をさいて開き、個人的に就職の相談にのっております。

第三は、2学年後期(実践段階)に行われる施設研修です。学生が具体的に就職を希望する施設(企業)を決定し、学校が職業教育協定書の締結及び研修の申し込みをし、許可が与えられた場合に約4週間にわたって研修するものです。

専門学校で学ぶとは、就職することと結びついていることでもあります。

就職指導は非常に大切ですが、それ以上に学生には専門知識・技能を学ぶことの大切さを絶えず教示しております。

② 就職状況

表1に2018(平成30)年度卒業生の就職状況を示しました。

平成30年度卒業141名(就職希望者138名)で就職者数は138名、就職率100%でした。

就職先は動物関連業種であり、その内、動物園、水族館は51名(37%)であり、

他には、ペット関連販売、観光牧場、馬関連施設、酪農・畜産、実験動物、動物病院等非常に多岐にわたっております。

(2) 資格取得状況

表2に2018年度の学校主導で取得した資格状況を示しました。国家資格の危険物取扱免許(乙種)、潜水士については、1学年次にて取得しています。特に国家資格取得のための補講は強化しております。民間資格の赤十字救急法救急員については、大半の学生が取得しており、緊急時での初期対応に役立つものと期待しています。また2015年度より玉掛け技能講習を実施し、就職後即役立つ実践技能として習得させております。

(3) 自主退学者の状況

表3に2012年より2018年までの7年間学年次別、学期別に自主退学者数と退学率をまとめました。2017年度入学学生では、1学年次で8名、2学年次で4名が退学し、退学率は7.8%でした。ところが、2018年度入学学生では、1年次で3名でありましたが、2年生となる目前(1年後期)に20名と、多数の退学者の発生がありました。従来の自主退学の理由として、成績不良や進路変更、健康上の都合等が考えられましたが、今回の理由の約半数は、早期に内定を得たためであり、社会の人出不足状況による、いわゆる青田刈りが、この退学者増の大きな原因と思われます。

5. 学生支援

(1) 学生相談

表4に、学生課が扱った学生の相談、及び指導内容とその延べ件数を2018年度2017年度と並列して示しました。

学校関係では、1学年では2018年度は前年に比べ出欠席が倍増し。逆に、定期試験は半減しています。2学年では定期試験が激減、進路変更は皆無でした。その実態は、学生からの相談というより、指導による件数が多数を占めています。

私生活関係では、例年通り、特に1学年に健康面での相談が多く、全国から学生が集まっており、自宅を離れ、寮やアパートなどでの不慣れな新しい生活による健康状態での変調が出てきて相談となるものと思われます。

個々の学生の「心」と「生活態度」問題には、組織的に対応しており、従来の学生とは異なり、大きな問題を抱える学生は見られておりません。

(2) 経済支援

① 特別奨学金制度

学生に対する経済的な支援体制のひとつとして、学費を無利子で貸与する学校法人川原学園特別奨学金制度を設けており、学費を無利子で貸与する制度です。

② 独立行政法人日本学生支援機構による奨学金制度

公的な奨学金制度を学生紹介するとともに、懇切丁寧に相談に対応し、経済支援をしております。

6. 教育環境

(1) 八千代本校舎及び学生利用施設

講義による知識の習得の場としての八千代本校舎は、1989年（本館）及び1992年（新館）に建設され、教室の面積によりコース別講義室（本館）と学科講義室（新館）に分かれております。

また学生利用施設として、自習施設（図書室）、福利施設としての学生ホールも備えている。詳細の面積等については、表5に示す。

学生数増加に伴い、教室内に大型TVを設置し、映像による講義の効果を高めており、学生には好評です。また数年前に取得した隣接地には芝生による緑化を計り学校祭などの使用時には非常に好評です。また2018年には学生ホール内テーブルの更新に続き、303教室内の机を一新した。机が今までより大きくなり、学生にとって利便性が向上しました

(2) 富里実習施設

表6に富里実習施設の主要動物舎面積を示しております。動物舎は第1号より第22号まで22棟あり、そのほかに放飼場、馬場、馬放飼場、付属農園があります。これらの動物舎は本校の学生が動物舎の構造を実際に理解できる目的で、学生等の実習を兼ねながら手造りしたものが多く、体験実習の成果であります。また展示施設ではなく、あくまでも飼育施設であり、動物福祉に配慮した構造としております。

2018年秋には、講義棟が新築され、1階には実習などを行うホール、2階には講義室が整備されております。今までとは格段に快適性が増し、講義や実習に専念できる施設です。

表7には、富里実習施設において飼育している教材となる動物を、哺乳類から鳥類、は虫類、両生類、魚類まで230種類1,530点（2019年3月末）動物園や水族館等で飼育されているような動物が実習に供されています。

(3) 実習用設備及び備品

実習設備及び備品を表8に挙げました。

(4) 防災対策

毎年7月に八千代校舎にて、近隣の消防署の協力を得て、火災防災訓練、

12月に地震防災訓練を実施しております。対象者は、学生及び教職員全員です。

7. 学生募集

(1) インターネットでの情報提供

インターネットのウェブ上で、ホームページを開き学校紹介を行っており、学校案内、学べること、キャンパス紹介、卒業生の活躍、オープンキャンパス案内、最新情報ブログなど内容は、随時最新の情報に更新しております。また資料請求や問い合わせもウェブ上でできるようになっております。

また、毎年更新し作成している東京動物専門学校案内 2019 年度版『まるで動物園のような学校』を作成し、これには最新の飼育場情報等を満載しております。

(2) オープンキャンパス

① 学校説明会

学校説明会は、八千代校舎にて行い、学校及び学校生活全般の説明のほか、入学試験、学費、就職のことなど、なんでも質問できるようになっております。また校舎内の施設見学も併せてでき、学校内容を十分に理解、納得した上で試験に臨むよう入学希望者に説明しています。学校説明会は、毎年3月より2月まで10数回実施しました。

② 授業見学

八千代校舎にて実際に学生が学ぶ様子を見学するもので、学校の雰囲気を感じることが出来ます。また休憩時間には、在学生と話すこともでき、若者同士による情報交換の時でもあります。授業見学は月～金曜日まで事前予約にて受け入れております。

③ 体験入学（実習体験）

富里実習施設の実習施設で実施している飼育実習の一部、動物のエサづくりやエサやり、乗馬体験などが体験できます。体験入学は、6月～9月の日曜日に7回ほど開催し、施設見学も体験入学実施月以外の時期に開催しており、どちらも事前予約が必要です。

(3) 学校訪問

関東圏の高等学校には庶務課と学生課の職員が訪問し、学校の進学担当者に直接面会し、学校案内に従い情報提供するとともに、受入れ募集を依頼しています。

8. 財 務

表9に財務消費比較表にて平成25年度より平成29年度までの過去5カ年分を示しました。この数年間は毎年150名前後の学生を確保しており、収入の大半を占める学費等の収入も横ばいで安定しています。財務健全化には消費支出の抑制も必要ですが、その大半は固定的経費であり、今後共経年劣化する建物の維持管理費の捻出が必須でもあり、入学生の確保は、専門学校の維持管理には必須の要件です。近年NHKをはじめTV取材が多くなり、マスメディアへの露出が学生募集には貢献していると思われます。

9. 地域貢献・地域連携、その他

(1) 学 校 祭

2018年9月21日から23日までの3日間、八千夫校舎内及び校庭にて、学校祭を実施し、延べ1万4千人の来場者で賑わいました。富里実習施設から動物を移動し、動物専門学校でなければできない内容であり、動物とのふれあい、エサやり、乗馬体験、動物たちのショーなどを実施しました。近隣より多くの人々の来場があり、楽しい3日間のイベントとなりました。実施している学生も楽しみ、また来場者も大いに楽しんでおります。学校周辺の住民増加が来場者増加の大きな要因と思われますが、ほぼ限界に近い状況になりつつあり、混雑解消対策が必須の課題です。

この学校祭は、開校以来継続的に学生が主体となり、企画立案・作成準備・実施といった過程をこなし、運営するものであり、学生たちのコミュニケーションやリーダーシップなどの養成に大いに役立っています。



(2) ホームカミングデーの開催

2015年1月に卒業生を対象に、本校初の同窓会を開催したが、再開の希望も多いことから、2018年12月に、ホームカミングデーと称し、富里飼育場において、同窓会を開催した。卒業生の家族を中心に300名を超える参加者があり、ホワイトタイガーをはじめ、動物を見たり、懐かしのカレーライスを食べるなどして、卒業生同士での交流を深めることができた。

表1：2018年度 卒業生就職状況

(2019年5月15日現在)

卒業生数：141名 (就職希望者数：138名)

就職者数：138

就職率：100%

就職先分野	企業数	求人数	就職者数
動物園	51	127	38
水族館	33	49	13
観光牧場	19	36	16
馬育成・管理	31	82	7
酪農・畜産	63	150	10
実験動物	9	49	6
動物病院	232	424	8
愛玩系動物販売	42	131	21
動物訓練	4	12	0
動物ふれあい施設	6	10	4
その他動物関連	14	16	6
動物関連外	9	9	9
総合計	513	1,095	138

就職先分野	主な就職先
動物園	札幌市円山動物園、※盛岡市動物園、※大町山岳博物館、※東京動物園協会、※横浜市緑の協会、※羽村市動物公園、※埼玉こども動物自然公園、※みさき公園、※とくしま動物園、※海の中道海浜公園動物の森、※沖縄こどもの国、※ネオパークオキナワ、那須どうぶつ王国、宇都宮動物園、群馬サファリパーク、どうぶつむら、市原ぞうの国、※東武動物公園、※富士サファリパーク、※伊豆シャボテン動物公園、※富士花鳥園、加茂荘花鳥園、掛川花鳥園、神戸どうぶつ王国
水族館	加茂水族館、※仙台うみの杜水族館、※アクアワールド茨城県大洗水族館、サンシャイン水族館、※しながわ水族館、京浜油壺マリンパーク、※のとじま水族館、下田海中水族館、紀宝町ウミガメ公園
観光牧場	世界のめん羊館、南ヶ丘牧場、牛久大仏小動物公園、船橋アンデルセン公園、大手町牧場、雪印こどもの国牧場、成田ゆめ牧場、マザー牧場、のじまスコラ、のまうまハイランド、南阿蘇ふれあい動物園
馬育成・管理	キタジョファーム、ユタカファーム、江戸川ポニーランド、乗馬クラブクレイン、八ヶ岳ロングライディング、スエトシ牧場
酪農・畜産	(独)家畜改良センター、プライフーズ(株)、新岩手農業協同組合、大笹牧場、PIONEER FARM、きうち牧場、柏木牧場、榎本養豚場
実験動物	三協ラボサービス(株)、(株)ジェー・エー・シー、(株)ユーテック
動物病院	イセ動物病院、中馬動物病院、ブナの森動物病院、ひらの動物病院
愛玩系動物販売	ペットのコジマ、AHB、ペットファースト、日本水族館、熱帯倶楽部ハナモペット、PCP千葉北店、ZOO JAPAN
動物ふれあい施設	アウルの森、株式会社OFF, HARRY(ハリー)
その他動物関連	宮内庁鴨場、しおん保育園、猪之頭養鱒場

※印は、契約職員等又はアルバイト契約(更新条件付)

表 2 : 2018年度中に学校主導で取得した資格

資 格 名	資格の区分 国家、民間資格	取得者数 (人)	
		1 学年次学生	2 学年次学生
危険物取扱免許 (乙種)	国家	34	0 (29)
潜水士	国家	33	5 (31)
赤十字救急法救急員	民間	147	0 (149)
玉掛け技能講習	国家	146	0 (149)
小型船舶操縦士	国家	0	0
フォークリフト	国家	0	0
		360	5
	合 計	365	【2018年度 465】

() 昨年度1学年次に取得した者

表 3 : 過去 7 年間の自主退学者数と退学時期

単位 (人)

入学年度	入学者数	退学者合計 (退学割合%)	1 学年 前期	1 学年 後期	2 学年 前期	2 学年 後期	留年者
2012年	158	26 (16.5)	6	13	3	4	特別コース1 休学 1 (自主退学)
2013年	150	27 (18.0)	6	15	5	1	
2014年	152	18 (11.8)	3	10	3	2	特別コース1名
2015年	155	12 (7.7)	4	4	3	1	
2016年	128	16 (12.5)	4	5	5	2	特別コース1名
2017年	153	12 (7.8)	3	5	4	0	
2018年	153	23 (15.0)	3	20			

表4：学生課が扱った学生の相談、及び指導内容とその延べ件数

内 容	1 学年 (件数)		2 学年 (件数)	
	2017年度	2018年度	2017年度	2018年度
学 校 関 係				
学 校 生 活 全 般	2 1	2 1	2	3
進 路 変 更	2	5	7	0
友 人 関 係	0	0	0	0
出 欠 席	4 3	8 6	6 4	5 8
定 期 試 験	1 1 8	6 0	2 9	5
学 外 研 修	0	0	1 3	1 0
私 生 活 関 係				
健 康	2 4	2 9	8	6
私 生 活 全 般	0	0	0	0
将 来 へ の 不 安	0	0	0	0
	2 0 8	2 0 1	1 2 3	8 2

表5：八千代本校舎 学生利用施設

校舎	用途	名称	面積 [m ² (坪)]	備考
本館	小講義室	102教室	60.75 (18.37)	
		201教室	60.75 (18.37)	
		301教室	60.75 (18.37)	
		302教室	60.75 (18.37)	
	自習施設	図書室	33.77 (10.21)	※1
新館	講義室	103教室	60.325 (18.24)	
		203-1教室	120.65 (36.49)	※2
		203-2教室	120.65 (36.49)	※2
		303教室	279.30 (84.48)	
	福利施設	学生ホール	112.825 (34.04)	

※1：蔵書数（2019年3月31日現在） 2,029冊

※2：203-2教室（203-1）と合わせて、教室として使用可。

表 6 : 富里実習施設主要動物舎

名 称	面 積(m ²)	(坪)
第 1 号 動物舎	167.2	50.58
第 2 号 動物舎	109.5	33.12
第 3 号 動物舎	193.9	58.65
第 4 号 動物舎	281.4	85.12
第 5 号 動物舎	182.6	55.24
第 6 号 動物舎	270	81.68
第 7 号 動物舎	236	71.39
第 8 号 動物舎	132.2	39.99
第 9 号 動物舎	132.2	39.99
第 10 号 動物舎	207.7	62.83
第 16 号 動物舎	67.5	20.42
第 17 号 動物舎	34	10.29
第 18 号 動物舎	32.4	9.80
第 21 号 動物舎	50.8	15.37
第 22 号 動物舎	20.9	6.32
牛 舎	64.8	19.60
放 飼 場	3,300	998.25
馬 場	2,000	605
馬 放 飼 場	2,067	625.27
付 属 農 場	17,088	5,169.12
合 計	26,638.1	8058.03

各獣舎の広さは運動場を含まず

表 7 : 富里実習施設教材動物

網名	種	点数
哺乳網	82	678
鳥網	118	793
ハ虫網	21	42
硬骨魚網	9	17
合計	230	1530

(2019年3月末現在)

表 8 : 看護実習用設備、及び備品

	設備及び備品名称	数量
1	AC-1システムケージL型	1
2	入院用ケージ	1
3	体重計診療台	1
4	手術台	1
5	動物全身麻酔装置	1
6	心電図モニター	1
7	レントゲンシステム	1
8	レントゲンカセット	9
9	シャウカステン	1
10	グリット	1
11	プロテクターグローブ	2
12	プロテクターエプロン	1
13	無影灯	1
14	保育器	1
15	内視鏡	1
16	自動高圧蒸気滅菌器	1
17	ガス滅菌器	1
18	ガス滅菌器 カスト	1
19	ヘマトクリット遠心機	1
20	殺菌線消毒器	1
21	顕微鏡 (モニター付)	1
22	顕微鏡	27
23	スケラー	2
24	輸液ポンプ	5
25	輸液ポンプ	5
26	検眼鏡・耳鏡付	1
27	喉頭鏡	1

	設備及び備品名称	数量
28	耳鏡セット アンテナ付	6
29	眼鏡セット	1
30	ウッド灯	1
31	尿比重計	1
32	卓上タンパク比重計	1
33	タンパク屈折計	1
34	ヘマトクリットリーダー	5
35	血球計算版(3種類)	17
36	黄疸指数計	2
37	聴診器 (学生用)	20
38	聴診器 (リットマン)	2
39	上皿天秤	1
40	電子天秤	1
41	骨格標本	1
42	模型 (眼・耳)	3
43	CPR DOG	1
44	術衣・有窓布・無窓布	37
45	グルーミング台	17
46	シンク	4
47	ハンドドライヤー	7
48	スタンドドライヤー	3
49	毛刈り用バリカン	6
50	シーラー	1
51	術衣棚	1
52	器械戸棚	1
53	物置戸棚	1
54	備品戸棚・物品棚	8

表 9 : 財務消費比較表 (5カ年)

(千円)

	平成30年度	平成29年度	平成28年度	平成27年度	平成26年度
教育活動収入合計	415,811	379,918	365,591	374,034	358,599
基本金組入合計額	10,180	1,620	12,800	14,040	14,507
教育活動収入の部の合計	405,631	378,298	352,791	359,994	344,092
教育活動支出の部の合計	367,389	365,247	317,387	334,478	340,575
当年度収支差額	38,250	13,051	35,066	25,516	3,517
前年度繰越収支超過額	△442,075	△455,126	△477,675	△503,190	△506,707
基本金取崩額	0				
翌年度繰越収支超過額	△403,824	△442,075	△442,608	△477,675	△503,190
減価償却費	11,740	11,181	13,030	11,831	15,009
在籍者数(5月1日現在)	298名	272名	276名	294名	281名
教員数(本務・兼務)	26(11・15)名	26(11・15)名	28(11・17)名	27(11・16)名	30(12・18)名
定員に対する現員比較	106.43%	97.14%	98.57%	122.50%	117.09%